



川越市小・中学生 学力向上プラン

～志を高くもち、自ら学び考え
行動する子どもの育成を目指して～



ベスト見つけ賞「大好き川越！」
子どもサポートコンクール「小江戸見つけ隊」入賞作品

平成31年4月
川越市教育委員会

1 策定の趣旨

川越市教育委員会では、平成28年2月に策定した第二次川越市教育振興基本計画の基本理念である「生きる力と学びを育む川越市の教育」と、「次代を担いたくましく生きる児童生徒の育成」、「ふれあいと思いやりのある地域社会の実現」、「心豊かで生きがいを持てる市民社会の実現」の3つの目標の具現化に向け、様々な教育施策を推進しています。本市では、「志を高くもち、自ら学び考え行動する子ども」の育成を目指すために、一人一人の子どもが心豊かで健やかに育ち、将来に向けて自立できる力を身に付けること、また、2020年度からの新しい学習指導要領全面実施に向けて円滑に移行し、さらに新しい時代に必要となる資質・能力の育成に取り組めます。

本市の児童生徒の学力は、学力調査の結果によれば中学校では近年向上傾向にあります。また、児童生徒が学校でよいところを認められたと感じている割合も高まっています。一方で、基礎的・基本的な知識・技能の定着や、判断の根拠や理由を明確にして自分の考えを述べることなどについては課題が見られ、「思考力・判断力・表現力等の育成」は、本市の学力向上の継続した課題となっています。一人一人の児童生徒が自分のよさや可能性を認識するとともに、多様な人々と協働しながら社会の変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、未来の創り手となるために、「志を高くもち、自ら学び考え行動する子ども」を育む学校教育の更なる充実が必要です。

そのために、子どもの視点に立ち、「何ができるようになるか」という観点から学びの姿を考え、「どのように学ぶか」という視点も重視し、新たな形態の学習指導の推進を図るとともに、学習環境の整備・充実を進めることで児童生徒の確かな学びを保障していきます。また、学校内外において、家庭・地域社会と連携し、様々な体験が得られる機会を充実させ、自己肯定感や社会性・規範意識を醸成し、子どもたち自身の志や意欲を高める教育を推進します。

これらを踏まえ、教育委員会と市立小・中学校が目標を共有し、学校の教育力向上につながる各種事業に計画的・継続的に取り組むために、「平成31年度版川越市小・中学生学力向上プラン」を策定します。

川越市の子どもたちの現状～平成30年度～

各種学力調査結果から見た児童生徒の学力の状況

- 全国学力・学習状況調査では、小学校6年生、中学校3年生とも全国平均を下回った。
- 目的や意図に応じて知識を活用する力、思考力・判断力・表現力に課題が見られる。

平成30年度全国学力・学習状況調査結果

	平均正答率	国語A	国語B	算数・数学A	算数・数学B	理科
小学校6年	67	52	60	47	57	
中学校3年	75	61	64	46	65	

- 埼玉県学力・学習状況調査では、中学校1～3年生が県平均を上回った。学力の伸び率は、小・中学校とも算数・数学が県と同等以上の伸び率である。学力の伸び率の全学年・全教科を合計した平均は、小学校70.5%、中学校は70.8%であった。

生徒指導の状況

- 暴力行為発生率は、小・中学校ともに県平均を下回った。
- 市全体のいじめの認知件数は前年度より増加している。
- 不登校児童生徒の割合は、小・中学校ともに県平均を上回った。

※平成30年度生徒指導に関する調査

児童生徒の体力の状況

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、小学校5年生は16項目中13項目、中学校2年生は16項目すべてが全国平均を上回った。
- 新体力テストの総合評価では、上位3ランク(A+B+C)の児童生徒の割合は、小学校80.6%、中学校85.3%であった。小・中学校ともに県目標値(小:80%、中:85%)を上回った。

- 自己肯定感や志があると肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比べて小学校では下回り、中学校では上回った。自分のよさや可能性を認識している児童生徒は、平均正答率が高い傾向にある。

【自己肯定感】

自分には、よいところがあると思いますか

小学校6年 79.9% (84.0%)

中学校3年 79.2% (78.8%)

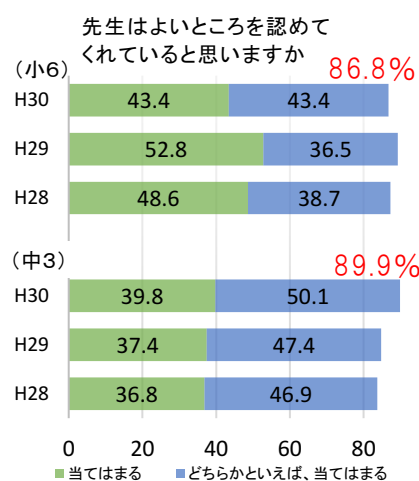
【子どもたち自身の志】

将来の夢や目標を持っていますか

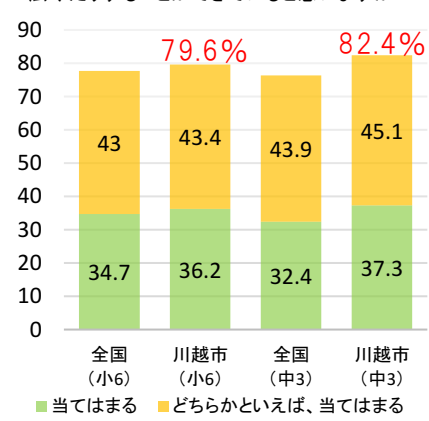
小学校6年 84.2% (85.1%)

中学校3年 75.3% (72.4%)

※()内は、全国回答率



話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていると思いますか

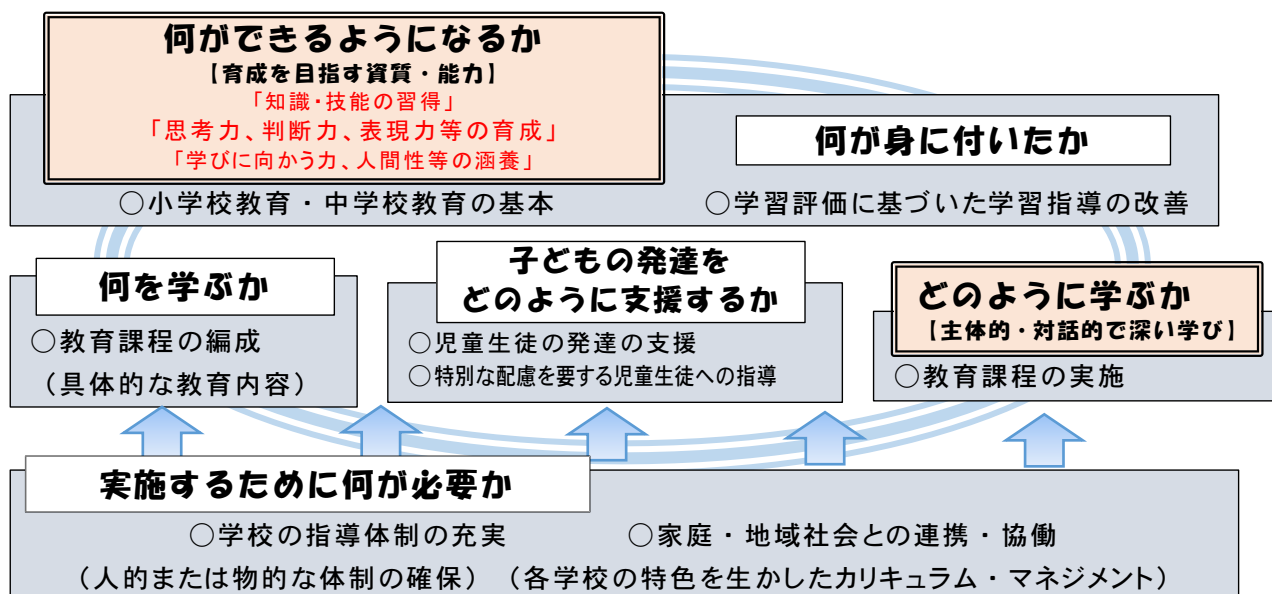


- 学校でほめられることが増えると、児童生徒の自己肯定感も育ち、主体的に学ぶ意欲が高まる。経年変化によると、児童生徒のよさを伸ばし、よさを生かす指導改善が進んでいる傾向が見られる。

- 話し合う活動で、自分の考えを深めたり広げたりできていると感じている児童生徒は、平均正答率が高い傾向にある。

※平成30年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査より抜粋

本プランで踏まえるカリキュラム・マネジメント



※学習指導要領(平成 29 年 3 月 31 日公示)における「カリキュラム・マネジメント」に関する記述より

本プランが踏まえる教育課程編成上の重点

①校種間連携の推進

義務教育9年間を通して児童生徒に必要な資質・能力を確実に育むことを目指し、小・中学校間の連携の取組を充実させるために、小学校と中学校が相互の情報を共有し、接続期における諸課題の解決を図る等、校種間の連携を深め、特色ある教育活動を展開する。

②言語能力の確実な育成

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、児童生徒の自主的、自発的な学習活動の充実が課題である。基盤として、各教科等における言語環境を整えるとともに、発達の段階に応じた語彙の確実な習得や情報を正確に理解して適切に表現する力の育成など、言語能力の確実な育成を図る。

③理数教育の充実

理数教育で重視してきた問題解決の過程は、プログラミング的思考の育成に関連する。科学に関する学力の向上は、理科に対する知的好奇心や探究心を育みながら、算数・数学とともに基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを活用するための思考力・判断力・表現力等を育成する。

④体育・健康に関する指導の充実

「生きる力」の基盤となる健やかな心身の育成に向け、体力と運動の技能を高める授業の実践、体育的な活動を工夫するとともに、心の健康、現代的な健康課題の解決に係る内容を改善し、食育を含めた健康に関する指導の充実を図る。

⑤生徒指導の充実

いじめ、不登校等の生徒指導上の諸問題は喫緊の課題である。すべての教育活動を通して、心の教育を推進するとともに、各学校の生徒指導が十分に機能するように教育課程を編成し、人間として調和のとれた心豊かな生徒の育成を図る。

⑥教育課程の評価・改善システム構築

教育課程の編成、実施、評価、改善は、教育活動や学校運営の中核となる。全国学力・学習状況調査や埼玉県学力・学習状況調査、市独自の学力調査等の結果を踏まえ、各調査結果を関連付け、自校のカリキュラム・マネジメント等に活用する。

⑦児童生徒の発達の支援

児童生徒一人一人の発達や学習の課題等を踏まえ、進路指導や生徒指導、学習指導等の充実、教育的ニーズをきめ細かく支えるための特別支援教育の充実、学習活動や学校生活の基盤となる学級経営の充実を図る。

※川越市小・中学校指導計画作成資料(総則編)平成 30 年 12 月発行より

2 川越市の教育が目指すもの

川越市の目指す
子ども像

**志を高くもち、
自ら学び考え行動する子ども**

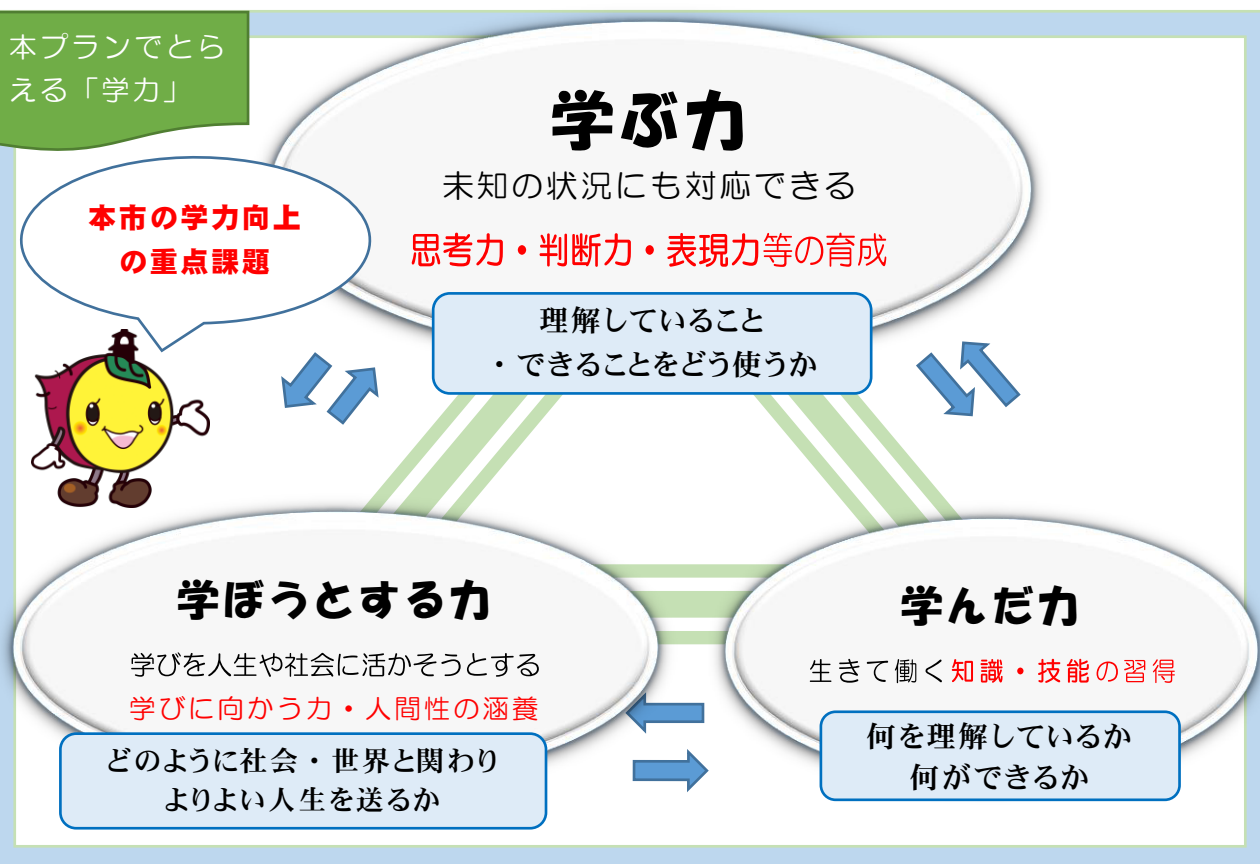
本プランの目標

子どもたち一人一人の学力向上



川越市マスコットキャラクター
ときも

本プランでとら
える「学力」



※ :新学習指導要領における育成すべき資質・能力

川越市の教育を
支える4つの力

【学校の力】
整備され落ち着いた学習環境をつくり、その中で子どもを育む学校の教育力
*詳細は P.7

【教師の力】
子どもの実態に応じ、一人一人のよさを認め、伸ばす教師の教育力
*詳細は P.8

【地域の力】
学校・家庭・地域の連携を深め、地域ぐるみで子どもの学びを支援する地域の教育力
*詳細は P.9

【家庭の力】
子どもの健やかな育ちの基盤であり、すべての教育の出発点である家庭の教育力
*詳細は P.9

『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善

本市の児童生徒の学力は、「基礎的・基本的な知識・技能の定着」、「判断の根拠や理由を明確にして自分の考えを述べること」に引き続き課題が見られます。毎日の授業では、「学習課題」と「まとめ」を大切に、児童生徒の思考力・判断力・表現力等を育成します。

目的や意図に応じて → 各種学力調査結果において課題が見られること
□内容を明確にして書く □内容を理解して書く □表す式を変形する
□構成要素・性質を使って表す □実験結果を基に分析して考察する など

授業では、子どもたち一人一人が「何ができるようになるか」(変容すること)を目指します！

学習課題
本時の授業で解決すること

学びの過程を質的に
高めるという視点

まとめ
子どもの言葉を生かしたまとめ

3 学力向上プラン推進により期待される学校の姿

(1) 「知・徳・体」がバランスよく育成されること

学校における教育活動は、生きる力を支える確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた育成を重視し、推進されています。あわせて、学習指導と生徒指導は、両輪をなすことで学校の教育力を発揮させるものであり、学力向上の基礎となるものです。

全国学力・学習状況調査
埼玉県学力・学習状況調査
川越市中学生学力調査

児童生徒の新体力テスト

生徒指導関係データ
(いじめ・不登校・問題行動)

教育に関する各調査等
において全国や県の平均を上回ること

(2) 川越市の魅力を生かした様々な教育実践が行われること

現在、少子高齢化やグローバル化、更なる技術革新の進展など、教育を取り巻く社会情勢は大きく変化しています。このような状況の中、未来の川越を担う子どもたちが生き抜く力をつけるため、地域と連携するとともに、本市の教育財産の活用し、実社会とのつながりある体験活動を推進しています。

子ども・学校・
きらめき体験事業

中学生
社会体験事業

部活動の充実、
地域人材活用事業

トップアスリート
ふれあい事業

小学生
科学体験事業

市立博物館・美術館の教育事業及び
市立図書館を活用した学習活動の推進

様々な機会を計画的に
設け、子どもたちの感性
や社会性、感動する心や
自立心を育むこと

(3) 教師の力を結集させた活力が学校にみなぎること

学校の教育課題
と目標の共有化

教育相互の
コミュニケーション

教職員研修・
自己研鑽

教師が共に高め合う環境
を整備し、教育に携わる
者としての信念や誇り、
責任を持ち続けること

(4) 子ども・保護者・地域のニーズに応えること

学校評価の総合分析(学校関係者、保護者等による評価)

各市立小・中学校の教育
活動に関して肯定的
な評価を得ること

4

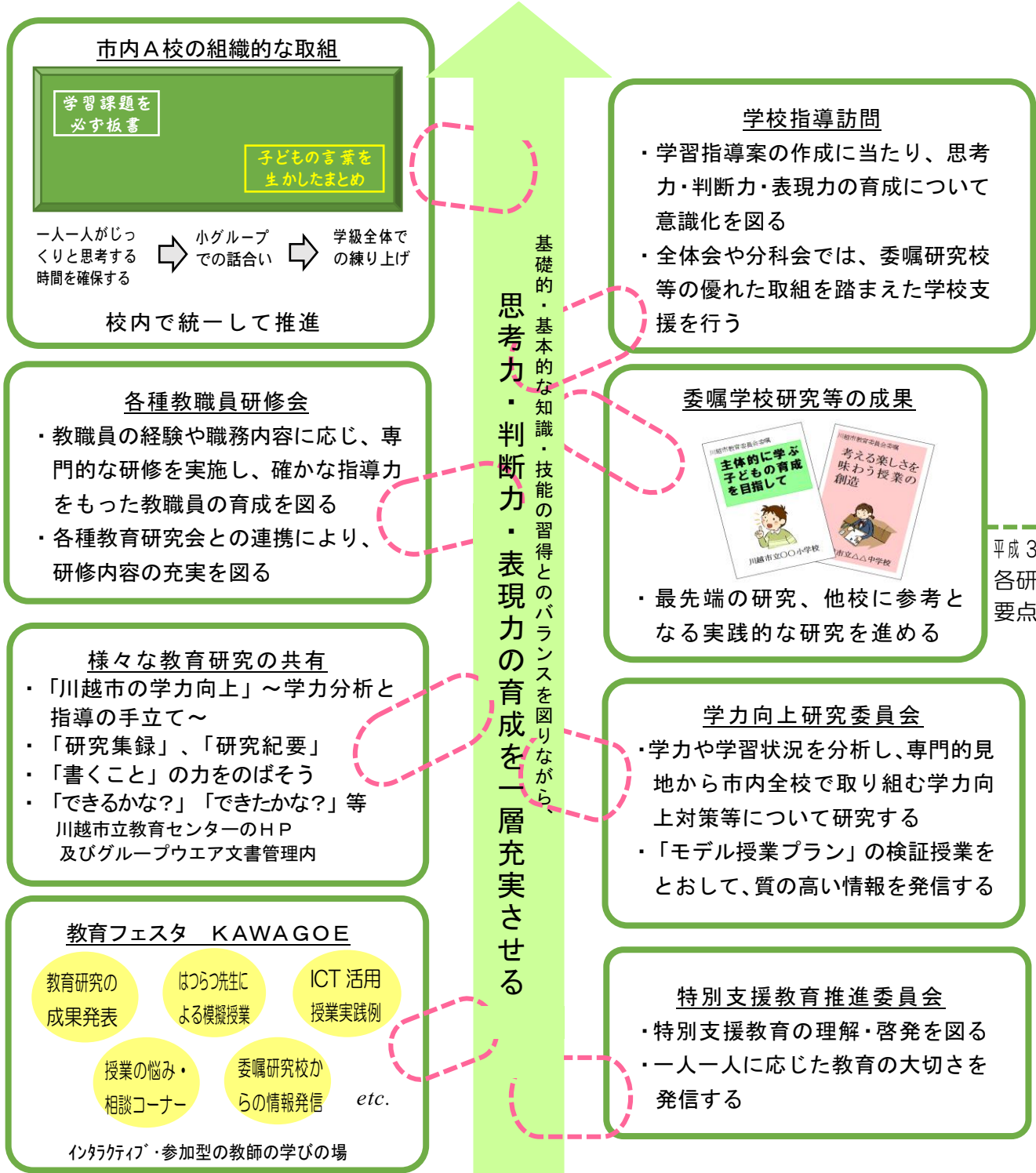
学力向上コネクト事業

※コネクト…つなぐ、関連付けるの意味

川越市の子どもたちの実態に基づき、市全体で一層充実させる本プランの目標を「子どもたち一人一人の学力向上」としました。これを踏まえ、教育委員会と各学校が明確な目標の下、方向性を同じくして様々な取組を推進することが一層重要となっています。

(詳細は「5 学力向上を支える主な施策」内)

子どもたち一人一人の学力向上



平成30年度に研究発表等を行った委嘱校の研究発表

寺尾中学校



生徒一人一人の自尊感情を高める手立てとして基礎学力の定着、授業改善、洗心無言清掃の取組、豊かな心を育む取組、家庭地域との連携等を推進していくことが有効である。

泉小学校



体育科では、仲間と関わり合いながら、運動の楽しさを味わわせる授業を実践することが、児童の主体性を引き出し、運動の技能や思考力・判断力を高めることに有効である。

芳野小学校



国語科において読む力を身に付けさせるためには、学習の見通しをもたせ、自ら考える場と学び合いの場を取り入れた学習過程を明確にし、指導することが有効である。

砂中学校



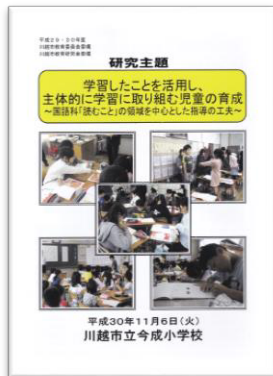
「規程・学力・自己有用感」をキーワードに、教職員が「授業規程」を定着させて授業を充実させることによって、生徒の学校生活への意欲は向上する。

霞ヶ関小学校



各教科共通の学習過程を作り、その上で教科の特性に合った授業を展開することは、児童の学びの質を高め、学習内容の定着に効果的である。

今成小学校



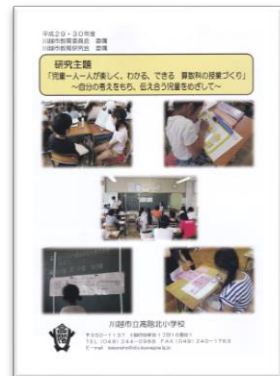
国語科では、児童が主体的に学び、自分の考えを深める学習につなげるために、魅力的な言語活動の設定や明確な課題提示を意識した授業展開が有効である。

古谷小学校



ユニバーサルデザインの視点を生かした指導方法を共有化することは、「わかる楽しさ」や「できる喜び」を味わわせ、主体的に学習に取り組む子の育成に有効である。

高階北小学校



算数科において児童一人一人がわかる・できる授業にするためには、実態に応じた授業展開の工夫や学習支援カード(いちに・わ・よ)を活用した話し合い活動の充実させることが有効である。

月越小学校



道徳科では、自分の考えをもち、少人数での話し合いを通して自分の考えを深められる問題解決型の授業を展開することが、児童の道徳的判断力を高めることに有効である。

(校種間連携教育)

- 福原小学校・福原中学校
- 霞ヶ関小学校・霞ヶ関南小学校・霞ヶ関中学校

小中一貫教育では、義務教育9年間を一体と捉え、教育課程の研究や共通指導項目の設定、協働授業の計画的に実施することが児童生徒の学力向上と豊かな心の育成に有効である。

* 関連は P.10

5

学力向上を支える主な施策

※思考力・判断力・表現力の育成を重点化する本プランと関連の強い取組は枠内カラー

※第二次川越市教育振興基本計画等における重点施策に関連する取組は **重点** のマーク

学校の力

- ◆校長のリーダーシップのもと、教育への情熱と使命感にあふれた教職員が組織的に取り組むことで、質の高い教育を実現します。
- ◆活力ある学校、信頼される学校、安全・安心な学校の創造を目指し、学校体制の整備に取り組みます。

目 標

施策の方針

具体的な取組

(1)
自主的・自律的
で活力ある学校
づくりの推進

学校の教育課題の解決
に向けた取組の推進



人権教育の視点に立ち、友達の異なる意見を認め合える話し合い活動を取り入れた道徳の授業研究（人権教育の充実）

①校種間連携教育の更なる推進 **重点**

②オールマイティーチャーター配置事業の推進 **重点**

③委嘱学校研究の推進

④道徳教育の充実

⑤人権教育の充実

⑥キャリア教育・進路指導の充実

⑦読書活動の充実（小江戸読書マラソン・中学生読書手帳）

⑧子ども・学校・きらめき体験事業の推進

⑨体力向上の推進

(2)
地域から信頼
される学校づ
くりの推進

教育委員会による学校の教育活動に対する人的サポート



理科の時間に担当教諭をサポートし、生徒にアドバイスする理科実験助手（理科実験助手配置事業の推進）

①スクールボランチ作戦事業の推進 **重点**

②特別支援教育支援員の配置

③理科実験助手配置事業の推進

④司書教諭・学校図書館図書整理員の配置

⑤さわやか相談員等の配置 **重点**

⑥日本語指導ボランティア派遣事業の推進

⑦スチューデント・サポーターの配置 **重点**

⑧特別支援教育学生支援員の配置

⑨スクールインターンの配置

学校評価等を生かした
学校組織の活性化

⑩学校評価の充実

⑪学校評議員制度の充実

⑫学校事務の共同研究の推進

(3)
安全・安心な
学校づくりの
推進

学校の危機管理の徹底とバックアップ

①通学路安全対策の推進

②安全・防災教育の充実

③学校保健活動の推進

教師の力

- ◆人間性×指導力×不断の努力＝教師の力
子どもたちの人格の完成を目指します。
- ◆教育のプロとして一人一人を伸ばす授業を展開します。
学級経営や生徒指導等についての資質や能力の向上を図ります。

目 標

(1)
確かな学力を
育む学習指導
の推進

(2)
自己指導能力
を育む生徒指
導の推進

施策の方針

教育委員会主体の学
力向上に向けた対応策
の強化



英語指導助手とのチーム
ティーチングによる外国語
活動の展開
(英語指導助手〔AET〕配
置事業の充実)

多様な教職員研修シス
テムの充実

喫緊の課題解決に向
けた対応力の強化



児童生徒が自分たち力で
いじめをなくす取組を考え、
話し合う取組
(川越市教育研究会生徒
指導部・特別活動研究部と
の連携)

学校の取組に対する
多面的な支援

具体的な取組

- ①学校指導訪問等による学校支援（学級経営の充実） **重点**
- ②川越市学力向上研究委員会からの情報発信 **重点**
- ③指定学校研究の推進
- ④一人一人に応じた指導の充実
- ⑤小学生科学体験事業の推進
- ⑥英語指導助手（AET）配置事業の充実 **重点**
- ⑦ICT教育の推進 **重点**
- ⑧コンピュータ施設・設備の充実と活用 **重点**
- ⑨特別支援教育の理解・啓発の推進
- ⑩学力向上アクションプラン（家庭学習の確立）の推進
- ⑪教職経験に応じた経験者研修の推進 **重点**
- ⑫資質向上を図る本市独自の専門研修の推進 **重点**
- ⑬かわごえミドルリーダー研修の実施
- ⑭教育フェスタ KAWAGOEの実施
- ⑮各種教育研究会等との連携
- ⑯生徒指導推進訪問による学校支援（学級経営の充実） **重点**
- ⑰川越市いじめ問題対策委員会の定期開催
- ⑱川越市いじめ・不登校対策検討委員会の定期開催
- ⑲教育相談の充実 **重点**
- ⑳生徒指導関係研修会の充実 **重点**
- ㉑いじめ通報システムを含めたネットパトロール事業の推進
- ㉒情報モラル教育の推進 **重点**
- ㉓生命を大切にする教育の推進
- ㉔関係機関との連携
- ㉕川越市教育研究会生徒指導部・特別活動研究部との連携
- ㉖指導主事等による各種学校訪問の実施
- ㉗臨床心理士の配置
- ㉘スクールソーシャルワーカーの配置 **重点**

地域の力

- ◆文化施設や大学等の機関、地域人材等の教育財産を有効に活用し、学校教育の質的向上を図ります。
- ◆子どもたちの地域活動等への参加を促し、地域で見守り、励まし、育てるといった地域の力の育成に取り組みます。

目標

施策の方針

具体的な取組

(1)
教育財産を
生かす取組の
充実

文化施設や近隣大学
との連携の推進



トップアスリートふれあい事業

地域との連携の推進



地域の中で多くの人々とのふれあいを通して社会人の資質・能力の基礎を学ぶ生徒
(中学生社会体験事業)

- ①市立博物館と学校の連携強化
- ②市立美術館の教育普及・支援事業を活用した学習活動の推進
- ③市立図書館を活用した学習活動の推進
- ④トップアスリートふれあい事業の推進
- ⑤小・中・大学連携理科ふれあい事業の推進
- ⑥英語ティーチングアシスタント事業との連携
- ⑦地域人材活用事業の推進
- ⑧学校応援団事業の推進
- ⑨中学生社会体験事業の推進
- ⑩幼稚園・保育園・小学校連携の推進
- ⑪「学校・家庭・地域の連携」に関わる研修の実施
- ⑫英語指導ボランティア派遣事業の推進

(2)
地域とのつながり
の強化

子どもを守り、育てる活
動の支援

- ①子どもサポート本部会議の実施 **重点**
- ②各地区子どもサポート委員会の開催 **重点**
- ③地域ぐるみ子ども見守り体制整備推進事業の実施

家庭の力

- ◆保護者を支援し、親として学ぶことができる機会を設け、家庭の教育力の充実に向けて取り組みます。
- ◆豊かな成長の基盤となる「食事や睡眠などの生活習慣」を子どもたちに身に付けさせます。

目標

施策の方針

具体的な取組

(1)
家庭の教育力
の強化

保護者等の悩みに応じた
支援活動

保護者が学ぶ機会の
充実

- ①教育相談・就学相談・適応指導教室の充実
- ②いじめ相談直通電話・いじめ相談電子窓口の開設
- ③スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等との連携
- ④PTA運営講座の実施
- ⑤家庭教育学級の推進、親の学習講座の実施
- ⑥スマイルチャレンジ事業
- ⑦いきいき登校サポートセミナー・発達障害セミナー・就学相談セミナーの実施
- ⑧保護者ととともに考える情報モラル研修会の実施

(2)
子どもの生活習慣の確立

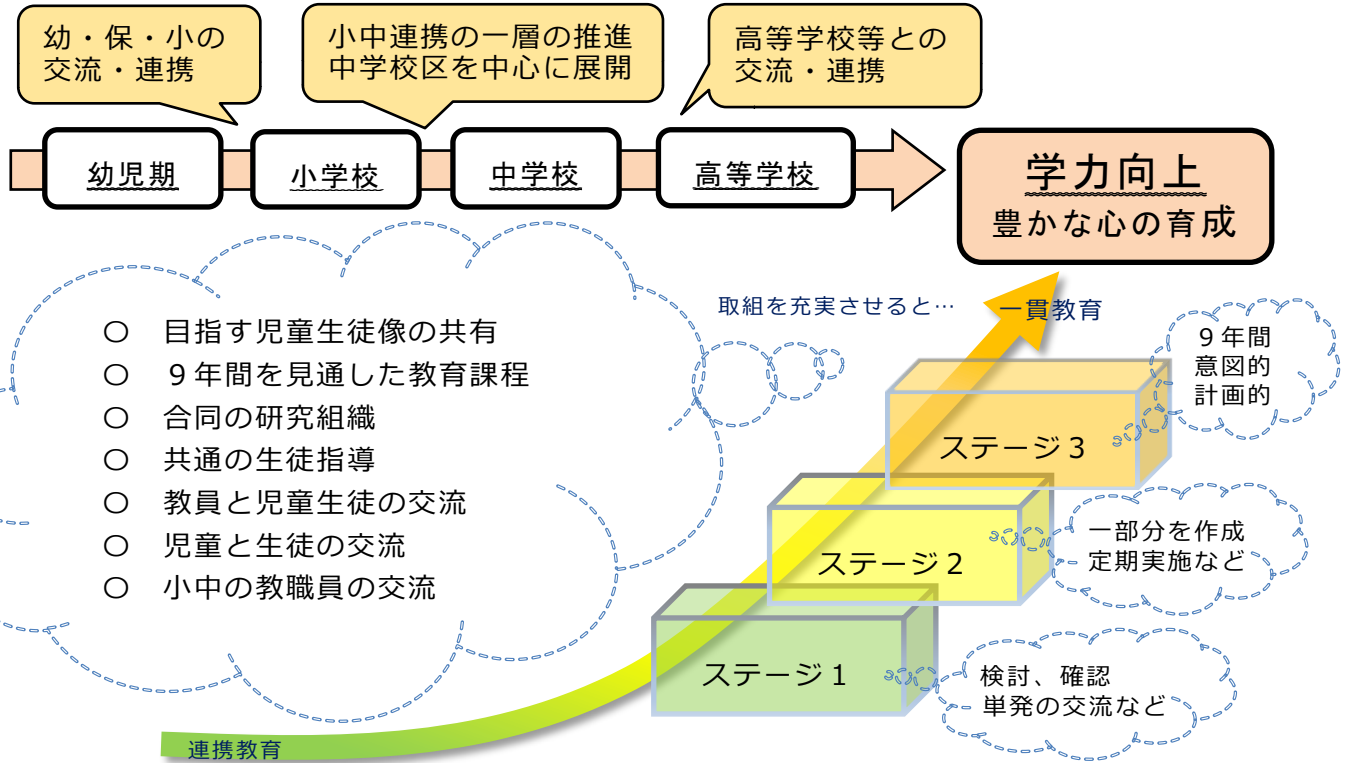
生活リズムの定着と食
に関する指導の推進

- ①ラジオ体操の推進
- ②学校給食と関連させた食育の推進

6

学力向上の充実を図る取組

校種間連携教育の更なる推進 ～連携教育から一貫教育へ～



平成31年度の重点

- ① 9年間を見通した教育課程の研究
- ② 合同の研究組織や共通指導項目の研究

項目	数と式	図形	関数	データの活用
小学1年～4年 【基礎期】				
小学5年～中学1年 【拡充期】				
中学2年～中学3年 【発展期】				

○ 9年間を見通した教育課程
9年間を基礎期、拡充期、発展期の3つに分け、それぞれの段階に応じた育てたい力を各教科で領域毎に示した。
(霞ヶ関小・霞ヶ関中学校・霞ヶ関南小学校)

○ 合同の研究組織
目指す児童生徒像に向け、合同の研究組織を作り、部会毎に課題解決を行う。(福原小・中学校)

○ 共通指導項目
小・中共通の授業の約束を作成し、児童生徒が自分の机に貼るなどして、常に意識できるようにした。
(霞ヶ関小・霞ヶ関中学校・霞ヶ関南小学校)

【授業の受け方 日々集】みんなで頑張ろう！

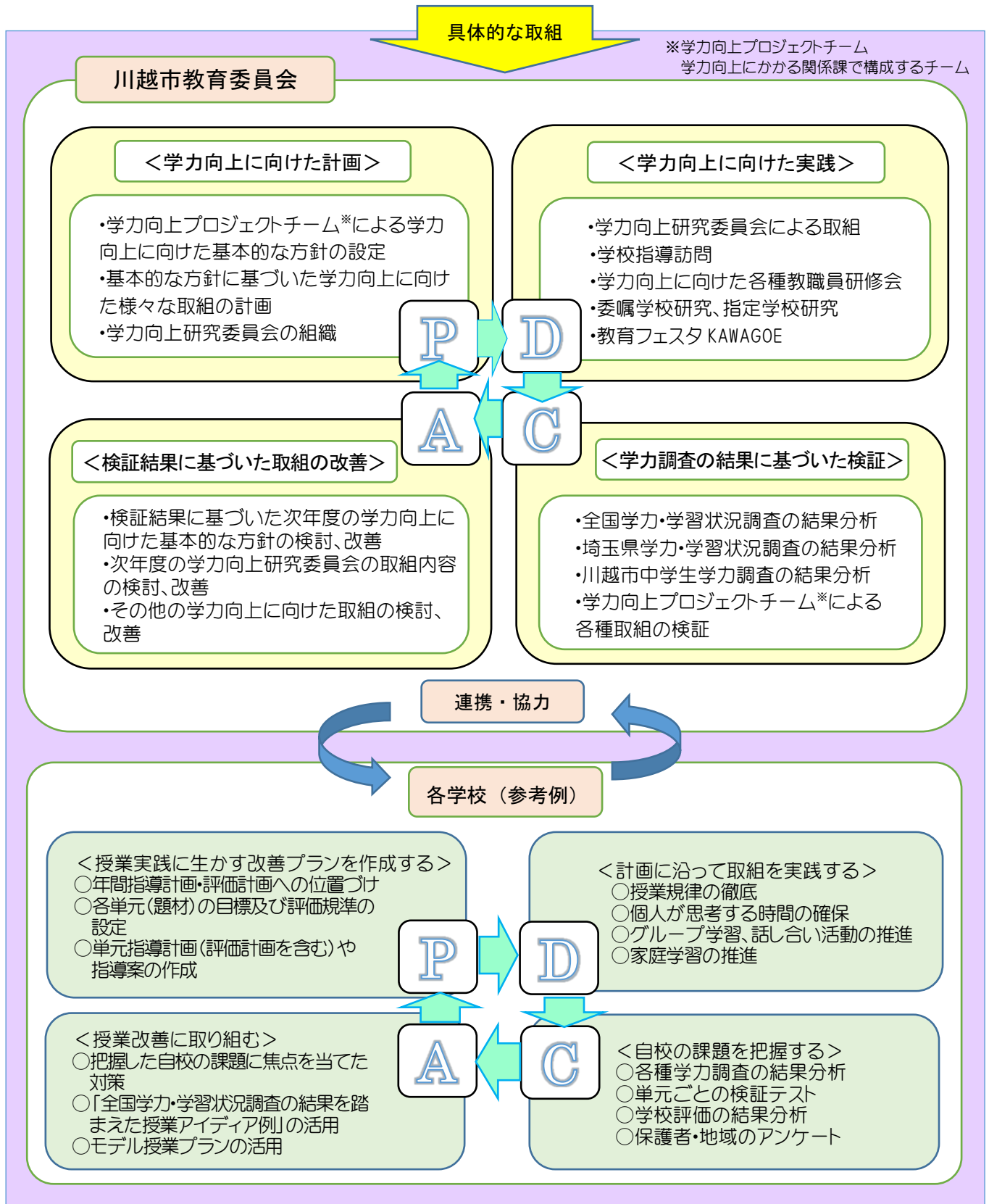
1. 思いっきりしゃべろう！
2. 発表のしかたを徹底しよう！
3. 指名されたら必ず返事をしよう！
4. 机の上を整理しよう！
5. ノートを見やすく書こう！
6. 授業の準備をし、忘れ物がないようにしよう！
7. 姿勢を正して話を聴こう！
8. 協力して学ぼう！

※上記の進んだ取組を参考に、重点①②について取り組むようにする。

<平成31年度 川越市の学力向上における重点>

<学力向上に向けた川越市教育委員会の基本的な方針>
子どもたち一人一人の思考力・判断力・表現力の育成

I 川越市学力向上PDCAサイクルの確立



Ⅱ 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善の推進

具体的な取組

学力向上研究委員会及び各学校における具体的な取組

<学力向上研究委員会研究の視点> 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業

キーワード「主体的・対話的で深い学び」とは



- ・主体的な学び: 学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること。
- ・対話的な学び: 学び合い等、他者と協働すること等によって、多様な見方・考え方を学ぶこと
- ・深い学び: 見方・考え方を働かせて、自分自身の次の課題を見つけること



ステップ1

モデル授業プランの提案
 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいた授業スタイルの提案
 ・「深い学び」の提示

ステップ2 モデル授業プランと活用した授業の実施（各学校）

- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点が見られる授業が → 単元構成、授業展開
- ・思考力・判断力・表現力の育成につながる授業が → 板書、子どもの変容

ステップ3 研究の成果の共有

- ・教育フェスタ KAWAGOE での情報発信(教員の学び合い)
- ・教育センターグループウェア文書管理を活用した教育財産の共有

*モデル授業プランは、「川越市の学力向上」参照

Ⅲ 授業と家庭学習サイクルの確立

具体的な取組

川越市学力向上アクションプランの継承による学校・家庭・地域の連携強化

キーワード「川越市学力向上アクションプラン」とは
 学校・家庭・地域が教育力を結集し、学校の授業の学習内容と家庭での宿題や自主学習を関連させて、継続的な学習活動をサポートしていくことで、子どもたちに“自ら学ぶ力”、“学び続けようとする意志”を育てていく取組

<家庭学習習慣の確立>

- ・宿題などを活用し、家庭学習の機会の促進
- ・予習・復習的な宿題、反復的な学習
- ・定期テストに向けた学習
- ・自由選択的(自主課題学習)な宿題の工夫

<学習規律や生活習慣の確立>

- ・学習の準備と片付けの徹底
- ・学校や家の手伝いの推奨
- ・学習や家庭、社会の中における約束、きまりやマナーの遵守

<学びの5か条の啓発>

- ・地域子どもサポート委員会、市PTA連合会との連携

学力向上アクションプランⅣ・小学校(中・高学年用)

川越市 学びの5かじょう

第1条

早寝、早起き、朝ごはん!



睡眠をしっかりとり、朝食をきちんと食べると、覚える力が強くなります。

第2条

毎日、家庭学習!



毎日、家庭学習をすると、学習したことが確実に身に付きます。

第3条

読書に親しむ!



読書に親しみ、本をたくさん読むと、読む力が考える力が身に付きます。

第4条

時間を決めて!



時間を決めて、計画を立てて勉強することで、集中力が身に付きます。

第5条

すぐに解決!



分からないことをそのままにせず、すぐに解決することで、苦手の勉強がなくなります。



川越市教育委員会

7

平成30年度学力向上研究委員会の主な取組

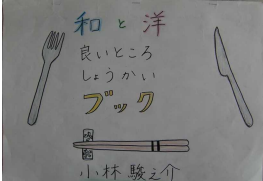
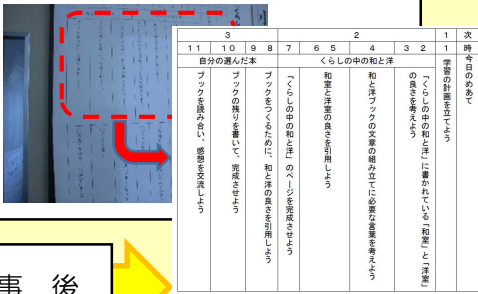
(1) モデル授業プランを踏まえた授業実践～小学校国語～

国語科では、**教材資料**等を活用し、児童生徒に**身に付けさせたい力**を育成するために、**実態に応じた魅力的な言語活動**を設定し、設定した言語活動を通して、**指導事項**を指導します。その際、**学習過程を明確化**し、**単元全体を見通した授業を展開**することが児童生徒の**主体的な学び**につながります。

教材 (第4学年教科書)
 単元名: 和と洋ブックで身の回りの「和」と「洋」の良さを伝えよう
 教材名: 「くらしの中の和と洋」

指導事項 (C 読むこと(1)エ)
 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること

学習過程の明確化
 教師自作の「和と洋ブック」のモデルを見せることで、**単元のゴールを明確にする**
単元全体を見通した授業展開
 単元計画表を教室に提示したり、児童に配布したりして、**学習の流れを常に意識させる**

事前

導入

展開①

展開②

終末

事後

児童の実態に応じた魅力的な言語活動を通して主体的な学びにつなげる授業実践

1 本時の学習指導 (本時 8 / 11 時)

- (1) 目標 自分の選んだ和と洋の良さを、引用しながらまとめることができる。
- (2) 評価規準 自分が調べたことを紹介するために、集めた情報を引用したり要約したりしている。
- (3) 展開 (指導計画等は「川越市の学力向上～学力分析と指導の手立て15～」を参照)

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫	時間
1 本時の学習課題をつかむ。		・教師自作のブック見本及び単元計画表から、本時の学習はどの部分になるのか確認させる。	5
2 どちらに良さがあると考えたか話し合わせる。	<p>和と洋の良さをブックで3年生に紹介するために、自分の選んだ「和」と「洋」の良さを引用しよう。</p> <p>【話し合いのめあて】自分の選んだ「和」と「洋」のどちらに良さを感じるか、自分の考えを話し合おう。</p>	<p>目的が明確であり、児童はこの目的を理解し主体的に取り組める。</p> <p>・並行読書から、自分の選んだ「和」と「洋」の良さを考えさせ、付箋に記入させておく。</p>	8
	<p>付箋にあらかじめ自分の考えた良さを記入しておくことで、スムーズな意見交流につながる。</p>	<p>考えた良さを伝え合い、資料を読んでも引用できるところを発表し合う。</p>	

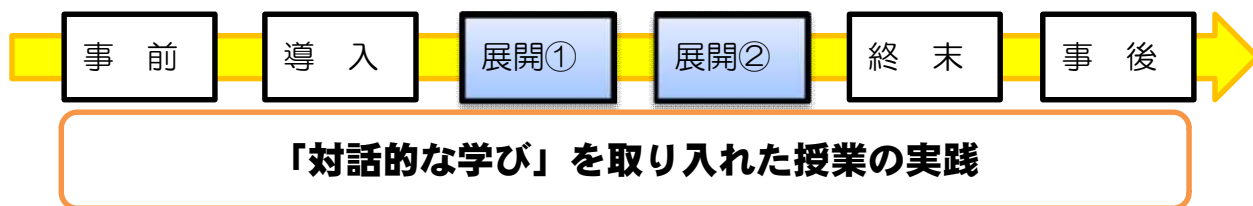
<p>3 必要な文章を引用する。</p> <p>並行読書本</p>  <p>工夫</p> <p>本の種類に限りがあるので、学級全体で活用できるように工夫する。</p>  <p>和と洋それぞれのワークシートに、線を引いた文章（引用する部分）を書き写す。</p>	<p>○自分が必要な部分の引用</p>  <p>児童一人一人に本が行き渡るようにすることで、いつでも内容の確認ができる。</p>	<p>・引用のきまりを確認する。</p> <p>引用のきまり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○引用する部分は「」をつけて書く。 ○そのまま書き抜く。 ○必要な部分だけ書く。 ○書名、筆署名、出版社、書かれていたページも書く。 <p>本時の目標は「引用をしながらまとめる」ことなので、引用のきまりを板書しておく。</p>  <p>・本を読み、引用する文章に線を引かせる。</p> <p><学習活動に即した評価規準>—略—</p> <p><評価方法> ワークシートの記述による分析</p> <p><手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの部分を引用するか決められない児童には、同じような言葉を使っている文章に着目させる。 ・自分の考えが書けない児童には、どのような時に良いのか具体的に示して考えさせる。 ・書けている児童には他の観点はないか考えさせる。 	<p>2 2</p>
<p>4 自分の考えを書く。</p>  <p>引用した部分から和と洋それぞれの、どのような良さを感じたのか、自分の考えをまとめる。</p>	<p>○具体例を入れた自分の考えの書き方</p> <p>まとめ 引用してわかった和と洋それぞれの良さ（例）</p> <p>「和」：ふすまは、空間を仕切る働きをしているところが良い。</p> <p>「洋」：ドアは、簡単に開け閉めできるところが良い。</p>	<p>・ワークシートに記入できた児童には、他の和と洋の資料でも書くようにさせる。</p> <p>・自分の考えについて、どのようなこと（引用した部分）から良さを感じたのかを示させる。</p>	<p>7</p> <p>3</p>
<p>5 本時の振り返りをする。</p> <p>10/11時に完成する児童のブック (並行読書本から「和」と「洋」の良さを引用)</p>  <p>めくと</p>	<p>主体的な学びにつなげる授業実践～成功のカギ～</p> <p>このような単元を貫く言語活動を位置付けた授業では「並行読書本の選定」「教師手本の作成（拡大版・実物大版）」「単元計画表の作成」などが必要になる。そのため、授業の計画・準備段階で、学年職員が共通理解のもと、協働して授業づくりを行うことが大切である。</p> <p>並行読書では、本の種類や調べる観点を限定することで、教師自身が児童の学習内容を把握でき、一人一人に応じた指導につながる。児童の視点に立って言い換えると、本の種類や調べる観点が限定されることで、児童は思考が拡散せず、めあてに合った活動が実現できる。</p>		

(2) モデル授業プランを踏まえた授業実践 ～中学校社会～

<学力向上研究委員会中学校社会科授業研究部会の取組>

○授業実践（※詳細は『川越市の学力向上』P. 68～73 参照）

中学校社会科モデル授業プランを受けて「対話的な学び」着目して



歴史分野	地理分野	公民分野
多様な資料から、グループの考えと、その根拠を示し、相手グループに説明する活動	作成した主題図を資料として、知識構成型ジグソー法を活用し単元をまとめる活動	複数の意見を導き出せる事例を用いて、グループで話し合い、意見をまとめていく活動

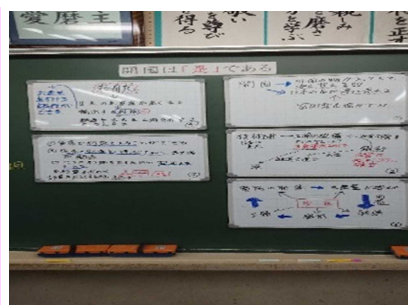
① 「対話的な学び」を取り入れたことによる成果と課題

【成果】

- 「対話的な学び（グループでの話し合い活動）を取り入れることで、生徒の学習意欲は高まり、積極的に学習しようとする姿が多く見られた。
- 「対話的な学び（知識構成型ジグソー法等）」と「一斉授業型授業」では、「対話的な学び」を取り入れた単元の方が、定期テスト等の結果にプラスに反映されていた。

【課題】

- ▲ 話し合いの価値のある題材・学習課題かどうかを十分に検討する必要がある。（＝単元計画）
- ▲ 話し合いの材料となる資料（質・量）を十分に精査し選定する必要がある。（＝教材研究）



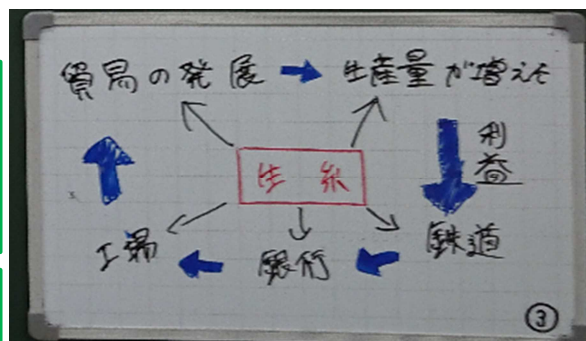
② 「対話的な学び」を深めていくための実践例

【グループごとのホワイトボード活用の工夫】

「文字による表現」だけでなく、分かりやすく「思考を図式化した表現」へ。

【日常から自分の気持ちや考えを「表現」する力の育成】

自分の考えを「まとめ」・「表現する」とともに他者のスピーチを聞いて「自分の考えを持つ」。

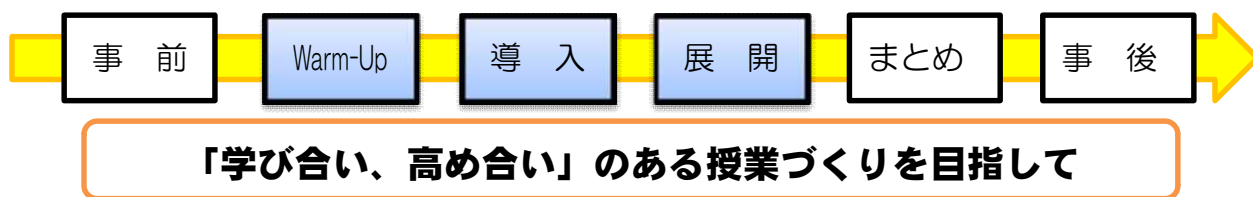


【3～4人を一組としたグループの編成】
同程度の学力の生徒でグループを組むことで意見が出しやすくなる。

(3) モデル授業プランを踏まえた授業実践～小学校外国語活動・中学校英語～ ＜学力向上研究委員会小学校外国語活動・中学校英語授業研究部会の取組＞

○授業実践（※詳細は『川越市の学力向上』P. 86～97 参照）

児童生徒の「動機付け」「達成感」「自主性」に焦点をあてた取組について



① 「動機付け」のための取組例

【小】映像資料の活用

児童が進学予定の中学校に協力を依頼し、中学生へのインタビューや、部活動や学校行事について映像に収め、教材として活用した。授業研究会ではこの映像を児童に見せ、What club do you want to join?やWhat school event do you want to enjoy?等の質問に回答するための練習を行い、コミュニケーション活動につなげた。

【中】リスニング教材の活用

「取り組みやすいもの」「短い時間でできるもの」等の視点で教材を選定する。全体像を把握したあとに、細部を聴き取るようにする。発音の似た語句の聞き分けの練習も取り入れる。得点を毎回記録させることで、自身の学習状況とその変化を把握させ、以後の学習につなげていく。音声の速度にも適宜、変化をもたせる等の工夫も加える。

② 「達成感」を持たせるための取組例

【小】児童に発話・発声の機会を多く設けるためのグループワーク

外国語の音声やリズムに慣れ親しませる段階で児童一人一人が発話・発声する機会を設定し、グループワークとして行うことで、楽しく学び合うことにつなげることができた。回数を重ねるごとに、グループ内で教え合う姿も見られた。

(例：1-10 Wow!ゲーム、Word リズムリレーなど)



③ 「自主性」を高めるための取組例（中学校）

【中】辞書の活用

生徒が自ら進んで英語を学びたいと感じられることで、自主性の向上につながると考えた。例えば、「分からないことは自分で調べる」ことを習慣付けるため、授業内で辞書を使う場面を意図的に設定した。「ここを見れば分かる」ということが定着し、「自主性」の高まりが、「動機付け」や「達成感」にも波及するものとする。自主的な取組が習慣化することをねらった取組例である。

(4) ときもドリルの効果的な活用例

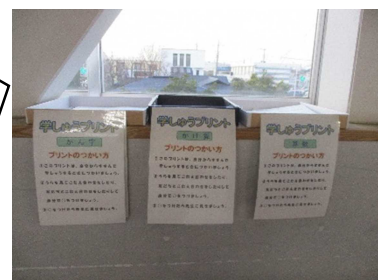
＜定期テストでの活用＞（中学校）

時期	内容	備考
夏休み前	ときもドリルの中から40問を選び、 <u>数字を変えて小テスト</u> を実施する。 (15分～20分程度)	<ul style="list-style-type: none"> 各問題について正答率を調査する。 生徒の苦手を確認する。
夏休み中 同じ問題	夏休みの宿題として1日5問の問題演習をさせる。(ときもドリルを活用した家庭学習。)	<ul style="list-style-type: none"> 模範解答には、途中計算も書いてあると生徒が解き直しをしやすい。
2学期はじめ	<u>確認テスト</u> (数字を変えずに <u>ときもドリル</u> の中から40問)を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 正答率の低い問題を授業で解説し、家庭学習で反復演習させる。
2学期中間試験	確認テストにおいて、正答率が49%以下だったときも <u>ドリル</u> の問題を再び <u>中間試験</u> に出題する。	<ul style="list-style-type: none"> 正答率の低い問題を授業で再び解説する。 家庭学習で反復演習させる。
2学期期末試験	中間試験において、正答率が49%以下だったときも <u>ドリル</u> の問題を <u>期末試験</u> に出題する。	<ul style="list-style-type: none"> <u>ときもドリル</u>の反復演習を通して、計算力を高める。

＜場の工夫＞（小中共通）

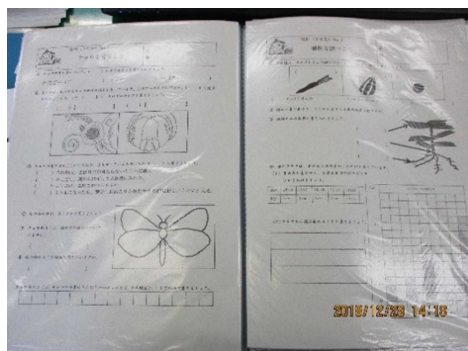
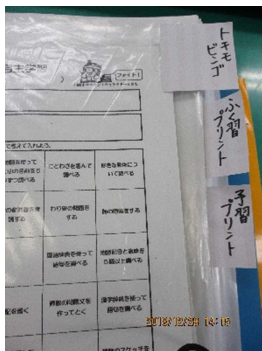
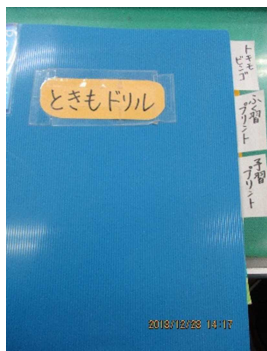
☆自主学習用プリントコーナーの設置（廊下）

- ときもドリル等のプリントを問題別に用意し、自主学習で使えるようにする。自分で問題を選んだり挑戦する枚数を考えたり、自分で決めることができるようにする。
- プリントの内容がわかるように説明を表示しておく。



☆教室の自主学習コーナー

- ときもドリルをファイリングして置いておく。授業の復習をしたい時や、何をしたらよいか迷った時などに、いつでも児童が持ち帰れるようにする。
- ファイルの中には「自主勉ビンゴ」「復習プリント」「予習プリント」などを分けて入れておき、定期的に補充する。



(5) 市内小・中学校における学力向上に向けた効果的な取組例

<効果的な取り組み【小学校】>

【課題とまとめ】

- ・児童の言葉を活かして課題を設定する
- ・今までの学習との違いなどから、本時の課題を明確にする。
- ・前時の学習感想などを本時の課題につなげられるようにする。
- ・話し合いで共通していたことや、よりよいことを中心にまとめさせる。
- ・「課題」と正対するようにする。そのため、課題文とまとめのリード文が同じになるようにする。



【学習過程の確立】

- ・授業の冒頭では、「のびのびタイム」と題し、本時の学習内容と関連のある既習事項を中心に、計算問題等に取り組む時間を設け、授業の見通しを持たせるとともに、基礎学力の向上につなげる。
- ・前時までの学習内容を〇〇コーナー等に掲示することで表の見方、変わり方など今までの学習内容を振り返ることができる。前学年・学期など学習内容の系統性を意識して掲示する。

<効果的な取り組み【中学校】>

【「学び合い、高め合い」】

エキスパート活動

グループ分けをして手元にあるある資料と知識で課題に対する内容を話し合い、別のグループの人に説明する準備をする。

クロストーク

新しい知識を身につけたら答えを出し、元のグループに戻って答えについて話し合う。答えの導き出し方をグループでまとめ、最後にそれぞれのグループで発表を行う。

【特徴的な取組】

- ・空き時間に短い時間でもお互いの授業を見合い、進度や指導内容、方法について共有する。
- ・近隣の中学校で指導方法の共有や、校区内の小学校での出前授業を実施している。
- ・グループごとのホワイトボード活用の工夫
 - 「文字による表現」だけではなく、分かりやすく「思考を図式化した表現」へ。
 - 経験を積み重ねていく。良い表現はグッドモデルとして、学級・学年全体に紹介していく。



<表紙の作品>

川越市立牛子小学校 第6学年 齋藤 颯哉さん

